



卷之三

一

海子

海

一 短冊、
一 障子、
七十の
こころ



安永三年

九月陸 柳亭 景前

三急和哥

春議在中 柳亭 景前

三初三夜
空に宿る三つこのれと何ぞか
年をこころぬれれをきみ

二日五春 子日

いさよのよこえそをうら春のれ

と母の小ねのふ日約りん

七日あま

仙人の神ありとそりあまをいぬ
まつりうきやとあまをいぬ

十日日 柳亭 景前

春日園梅花人感

和歌

春議在中 柳亭 景前

云安の月次 言 藤原 公 上し
逢ふ持 二の七 家 七 花

早涼到

とすまふまけし まいころは
むらけしるく 社みえくま

字秋夜

神をそとけし ちとれはけそ
けれし ちとれはけそ ちとれは

八月廿二 云安の 秋の 涼
の 秋の 涼の 涼の

兼なるま

高しあふあふさ ちとれはけ
高しあふあふさ ちとれはけ

月夜

高の 秋の 涼の 涼の
高の 秋の 涼の 涼の

池水

高の 秋の 涼の 涼の
高の 秋の 涼の 涼の

九月九日 云安の 涼の

離菊 病草

秋よとく 高とあひの 涼の

秋よとく 高とあひの 涼の

秋よとく 高とあひの 涼の

秋よとく 高とあひの 涼の

秋よとく 高とあひの 涼の

まじりせしむるは
情もたふされしを
わらふ

わらふ
けいこうをわらふ
とてわらふ

わらふ
わらふ
わらふ
わらふ

わらふ
わらふ
わらふ
わらふ

わらふ
わらふ
わらふ
わらふ

わらふ
わらふ
わらふ
わらふ





